

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：大学図書館	担当部局：大学図書館
大項目	9 教育研究等環境（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	9.0.3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	
要素	図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 新設学部設置に関連して必要な学術情報を収集・整理・保存し、利用者に提供する。	→図書館登録蔵書数、年間増加冊数、特定分野の蔵書の増加数、電子ジャーナル数、データベース数	A	A			
2. 学生数の増加に伴う利用環境の整備および利用者支援システムの整備をおこなう。	→閲覧座席数（対学生数比率）、オリエンテーション等利用者教育の種類と件数、図書館入館者数、貸出件数（学生一人当たりの冊数）、開館総日数・時間数、4年に1度調査する利用者実態調査に見る図書館満足度・提供サービスの認知度、OPACアクセス件数、ホームページアクセス件数、PC設置数、キャンパス間相互利用件数	B	B			
3. 資料提供サービスや図書資料の目録所在情報整備業務に必要な高度な専門知識や技術を持った職員を育成する。	→図書館職員数（資格を含めて）、外部研修会・講習会参加件数、研修会・講習会実施（開催）件数	B	B			
4. 機関リポジトリの登録件数1万件を目指す。また、デジタルコンテンツを毎年1コレクションずつ増やす。	→機関リポジトリの登録件数・閲覧件数、デジタルライブラリ公開件数、デジタルライブラリアクセス件数	B	B			
5. 一般公開利用者への提供サービスを見直し、地域の公共図書館との連携を強化して申込者数の増加を目指す。	→一般公開利用者登録数、展示企画回数、講演会回数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

<p>小項目9.0.3</p> <p>★</p>	<p>9.0.3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。</p> <p>(説明)</p> <p>①2010年度は学部・学科の新増設による図書資料収集を含め、図書は41,929冊、雑誌は9,816冊を登録し、図書館蔵書冊数は、1,911,017冊となった。また、電子ジャーナル数は23,559タイトル、電子ブック数は26,672タイトル、オンラインデータベース数は88種となった。</p> <p>②学部新設に伴い西宮上ヶ原キャンパスの収容定員数が増加し、2012年度には図書館の閲覧座席数が収容定員数の10%を下回ることから、2010年度予算で10%を下回らない程度の座席増設が予算化され、82席を増設した。その結果、収容定員における座席数の割合が西宮上ヶ原キャンパスで10.5%となった。また、利用者への提供サービスについては、図書館入館者数が昨年度比較で47,652人増加し、学生一人あたりの貸出冊数は昨年度比較で1.7冊増加した。その理由として「新潮文庫」や「レポート・論文関連図書」のコーナーの新設、英語読本(指定図書)の貸出増加などがあげられる。OPACアクセス件数が2,061,883件であり、ホームページ閲覧件数が319,606件であった。また、利用者教育については、基礎演習対象の「文献の探し方講習会」や、研究演習対象「学術情報検索講習」の実施件数が449件となり、昨年度比較で1.2倍となった。さらに、複数キャンパス間の相互利用件数は5,834件となり、昨年度比較で2.1倍となった。</p> <p>③図書館サービスの質を決定する図書館職員の外部研修や講習会への派遣については、電子情報サービスの提供や図書館利用サービスの見直しなどを中心とした研修・講習会を中心とし、件数は昨年度と同程度であった。また、国立情報学研究所の目録システム地域講習会(図書目録)を私学で唯一、継続実施しており、他大学図書館職員の育成にもあたっている。</p> <p>④機関リポジトリへのコンテンツ登録件数は4,642件、ダウンロード件数は387,755件であった。2010年度は紀要掲載物の一括登録や博士学位論文の電子化および登録を行い、各研究科等の関連部署と連携して効果的な登録を行うことができた。リポジトリの閲覧件数は昨年度比較で2.65倍増加しており、”Ranking web of world repository”(2011年1月)の調査では、関西学院リポジトリは世界で337位となっている。(昨年度は459位であった。)また、デジタルライブラリについては、2003年度から継続的に構築しているが、2010年度はJ.S. ミル、マルサス、レオン・ワルラスを中心とした『経済思想家の手稿と自筆書簡画像データベースⅡ』を構築し、図書館ホームページからデジタルコレクションを公開している。</p> <p>⑤地域との連携施策として、一般公開利用制度があり、一般市民265名が登録し図書館を利用した。また、年5回、図書館所蔵資料を用いた企画展示を実施し、学生の学術的な興味を喚起することに努めている。秋季には図書館所蔵の学術資料『工藝』をもとにした学術資料講演会「民藝運動と関西学院」を開催し、約100名の地域住民との交流を図る場を持つことができた。</p>
<p>その他</p>	

## 《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

	単位	2004	2008	備考
指標1 図書館に対する満足度調査	%	79.7% (満足+やや満足)÷回答者	【所蔵資料】学部生:83.8 大学院生:74.6 【施設・設備】学部生:84.5 大学院生:86.9 【各種サービス】学部生:93.9 大学院生:87.7 【開館日・開館時間】学部生:80.7 大学院生:65.6	
指標2 図書館主催の講習会の認知度	%	学部生61.6、大学院生81.2	【キャンパスライフABC!】学部生:80.2 【大学院生新入生オリエンテーション】大学院生:83.3 【基礎演習対象新入生オリエンテーション】学部生:92.1 【演習・クラス対象文献の探し方講習会等】学部生:86.5 【個人で申し込む講習会】学部生:73.7 大学院生:74.6	
指標3 相互利用制度の認知度	%	【文献複写】:学部生49.1、大学院生89.3 【図書貸借】:学部生50.2、大学院生87.5 【直接利用】:学部生45.9、大学院生85.0	【文献複写】学部生:31.7 大学院生:79.1 【図書貸借】学部生:35.3 大学院生:70.9 【直接利用】学部生:24.1 大学院生:58.6	
指標4 HPから提供しているオンラインデータベースの利用度	%	学部生33.3、大学院生73.7	学部生:30.8 大学院生:62.0	累計ではない。実数を測るシステムがないため。
指標5 職員の対応に対する満足度調査	%	(満足+やや満足)÷回答者 【貸出返却】学部生77.9、大学院84.3 【レファレンス】学部生79.8、大学院生91.3	【貸出返却】学部生:95.5 大学院生:96.4 【レファレンス】学部生:94.4 大学院生:95.2	

	単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標6 図書館登録されている蔵書数	冊	1,766,743	1,806,384	1,867,436	1,911,017		図書、定期刊行物	
指標7 年間増加冊数	冊	52,354	53,445	71,658	51,745		図書の受け入れ状況	
指標8 収容定員における座席数の割合	西宮上ヶ原	%	11.3	11.2	10.6	10.5	10.6	座席数÷収容定員
	神戸三田	%	11.0	11.0	12.7	12.1	11.6	座席数÷収容定員
	西宮聖和	%			46.9	30.9	22.9	座席数÷収容定員
指標9 学生一人あたりの貸し出し冊数	冊	8.7	9.0	8.7	10.4		(上ヶ原 & 三田総貸出数)÷(学部生 & 院生数)	
指標10 図書館入館者数	西宮上ヶ原	人	764,187	783,841	773,454	815,976		
	神戸三田	人	301,916	310,858	290,296	295,426		
指標11 HP閲覧件数	件	255,164	274,290	324,750	319,606		2008年度まで上ヶ原のみのデータ 2009年度以降上ヶ原+三田	
指標12 オンラインデータベース数	種	77	80	85	88			
指標13 オリエンテーション等利用者教育の件数	西宮上ヶ原	件	290	310	327	394		
	神戸三田	件	45	53	47	55		
指標14 OPACアクセス件数	件	2,043,894	2,133,820	2,291,045	2,061,883			
指標15 PC設置件数	台	142	142	142	142			
指標16 キャンパス間相互利用件数	図書取り寄せ	件	3,294	2,812	2,459	5,520		
	文献複写	件	521	353	309	314		
指標17 外部研修会・講習会参加件数	件	50	49	43	42			
指標18 館内研修会・講習会実施件数	件	3	3	3	3			
指標19 機関リポジトリ登録件数・閲覧件数	登録件数	件	232	523	2,117	4,642		
	閲覧件数	件	9,436	28,063	146,207	387,755		
指標20 デジタルライブラリ公開件数	件	5	6	7	8			
指標21 デジタルライブラリアクセス件数	西宮上ヶ原	件			2,541	2,324		
	神戸三田	件			616	627		
指標22 一般公開利用登録者数	人	311	281	276	265			
指標23 展示企画回数	件	5	5	5	5			
指標24 講演会数	件	2	1	2	2			

(その他の指標データ)

大学図書館の年間開館日数

図書館の利用者数

図書・資料の貸出数

図書館の地域への開放の状況

Nacsis-Catの登録件数

大学図書館HPから提供しているオンラインデータベースの認知度

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

## 【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.3	2008年度に学部生、大学院生に対して実施した「第2回大学図書館利用実態調査」には、「図書館に小説を置いてほしい」という要望が多数寄せられた。これに応えるため、2010年度から文庫コーナーに「新潮文庫」を設置したところ、学生諸君の反響が大きく新潮文庫の貸出冊数が14,629冊(2010年度)となった。また、新入生がレポートを作成する場合や、上級生が卒業論文・研究論文を作成する場合に役立つ文献を集中配架した「レポート・論文作成関連図書」コーナーを新設した。このコーナーの図書も貸出冊数が1,465冊(2010年度)となり、常に利用されているという状況であった。今後もさらに教育・学習・研究支援のための図書館サービスを充実させる。
	その他	

## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.3	本学の教育・学習を支援するための図書館サービスとして、英語で書かれた読み物や小説をレベル別に配架し、英語の多読学習を支援する取り組みを行っている。この多読学習は英語の授業にも取り入れられており、本人の進度に合わせて徐々にレベルアップを図り、英語の原書を読めるようになるというものである。しかし、まだ始めたばかりで蔵書の規模が小さいため、充実をはかる必要がある。また、図書館では授業と連携した初年次教育、具体的には基礎演習を対象とした「文献の探し方講習会」を実施している。この取り組みは授業でレポートが課せられた場合を想定して各種データベースの使い方、図書資料の利用方法を教授するという講習会であり、初年次の学生にとって重要な意味を持っている。従来から実施していた図書館オリエンテーション(館内ツアー方式)を全面的に見直した。2010年度の参加ゼミ数は129ゼミ、2,825名が受講した。これは基礎演習全体の約90%にあたる。今後は実施内容を教員等の意見をもとに再考し、学部・研究科の協力を得ながらさらに充実をはかる。
	その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

## 【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.3	学術雑誌は、冊子体から電子媒体への変更が急速に進展している。図書館では電子ジャーナル購読契約をJUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)における海外業者との交渉を踏まえ、出版社単位での購読契約を進めているが、大学の基盤である図書資料購入予算の確保が次第に難しくなっている現状においては、電子ジャーナル、オンラインデータベース、電子ブック等の電子情報資料について今後の値上げリスクに注意を払っていく必要がある。
	その他	

## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.3	電子情報資料の購読維持について次年度もJUSTICEに加盟し、少しでも安価に購読契約できるよう努力する。また、これらの電子情報資料を取り扱う業務担当者を2名配置し、スムーズな購読契約を行うとともに、教員からの相談やOPACからの電子情報検索等、利用提供面における充実を目指す。
	その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★	その他(自由記述)	大学院生を対象とした図書館サービスは、全学的に利用される研究用図書資料、学術雑誌(冊子)、電子ジャーナル、オンラインデータベースを提供すること以外に、図書館所蔵図書資料を用いた研究を行うための研究個室の提供、学外文献複写依頼や学外図書貸借依頼をオンライン目録から行えるサービスの提供、貸出冊数を20冊、期間が60日間とし、学部生(10冊、14日間)よりも冊数と期間を拡大している等のサービスがある。また、大学院生用の図書資料費を図書館図書費から各研究科(独立研究科、専門職大学院を含む。)に配分している。しかしながら新設の大学院研究科に対する図書館図書費の増額について、継続して予算申請しているがなかなか予算化されず、大学院生の研究活動への影響を懸念している。また、図書館では、2012年度に学部生、大学院生を対象に「第3回大学図書館利用実態調査」を図書館蔵書の充実度、閲覧環境、サービス体制等の充実に資するため実施する予定である。
---	-----------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○学生のため、様々な工夫が重ねられています。学術関係の電子ジャーナルの購読は、予算上の制約がありますが、更なる検討が期待されます。大学院生のためにも、いろいろと改善努力が行われていることは評価されます。

##### 【学内委員】

○さまざまな目標や方策を説明する際に数字による裏付けが不可避であることは承知しています。この進捗シートは、誠実な自己評価を表すものとしてよく記述されており、大いに評価できます。しかし、外部の者がこれを見る場合、記述の中に示される数字が多すぎると、かえって事実の把握が困難になることがあります。

○電子情報化への対応を進めていることは評価されます。今後、一層の努力が期待されます。

○自由記述欄に大学院生に特化した内容を記していますが、これは現状の説明に記すべき内容ではないでしょうか。

○丁寧で、誠実な自己点検・評価であり好感が持てます。

○一人当たりの貸出冊数、キャンパス間相互利用件数が増加していることは評価されます。

○座席数については、迅速な対応により改善されました。大学基準協会の新しくなった「評価に関して留意すべき事項」においては、具体的な数字は示されていませんが、これを基準として、適正な座席数について絶えず検討が必要でしょう。

○予算が厳しい中、新しい試みをされ、利用促進されています。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目9.0.3

基盤評価：「図書館における図書、学術雑誌、電子媒体等の整備状況が、当該大学、学部・研究科等における教育研究活動に支障のない質・量のものであること」「図書館、学術情報サービスを支障なく提供するために、専門的な職員を配置していること」

達成度評価：「図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報及びその利用環境が、方針に沿い適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・国立情報学研究所のG e N i iや他の図書館とのネットワークを整備するなどの、学術情報へのアクセスの充実
- ・座席数・開館時間など、学生の学修に配慮した図書館利用環境の整備

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★「自由記述欄に大学院生に特化した内容を記していますが、これは現状の説明に記すべき内容ではないでしょうか。」との評価専門委員会からの評価を了解いたしました。次年度より対応いたします。